

【別表】 写真撮影要領

1 工事写真分類別撮影要領

分類	区分	撮影頻度	撮影の要点及び注意事項
着手前・完成	着手前	着手前 1 回	工事区域全体の状況が判断できる写真を撮影すること。 ①起終点は勿論、工区全体の状況が判断できる写真であること。 ②人家、立木等障害物が多く工区全体の関連写真の撮影が不可能な場合は、順序よく関連付けされた（関連位置を明確にするポール等を設置）追い写真とする。
	完成	完成後 1 回	全景及び部分写真の 2 種類に分類されるが、着手前写真と対照できるように同一箇所から撮影すること。 また、部分完成写真は主要工種毎及び主要構造物毎に撮影すること。
施工状況	工事施工中	工種種別毎 1 施工箇所 毎	工事の施工方法、施工時期、出来高工程、進捗状況などの記録写真となり、総合的な判断資料となるため、施工状況がよく分かるように工夫するとともに、契約図書の工種別に工事の施工状況を撮影し、順序良く整理すること。 工種毎の撮影箇所等は、2 工種別撮影要領によること。
	機械施設	機種毎 設備毎	現場搬入時に機種、形式、規格等が確認できるよう 1 台毎に明示して撮影すること。 現場仮設機械（プラント等）の設置状況、機種、形式、規格等及び機械の組合せ関連が確認できるよう撮影すること。
	仮設（指定仮設）	1 施工箇所 毎	指定仮設については、仮設状況、使用材料、形状寸法が確認できるよう撮影すること。 廻排水等の任意仮設については、仮設状況を撮影すること。
	図面との不一致	必要に応じて ただし、 ※ 1 の場合 撮影毎に 1 回 ※ 2 の場合 計測毎に 1 回	図面と現地が不一致の場合は、不一致程度が判断できるよう撮影すること。 ※ 1 発注者が指定する規定における空中写真測量（UAV）による場合（写真測量に使用したすべての画像（I CONフォルダに格納））〔発生時〕 ※ 2 発注者が指定する規定における地上型レーザースキャナー（TLS）、地上移動体搭載型レーザースキャナー（地上移動体搭載型LS）、無人航空機搭載型レーザースキャナー（UAVレーザ）、TS（ノンプリズム方式）、TS等光波方式、RTK-GNSSによる場合〔発生時〕
安全管理	各種標識・保安施設等	種類毎	工事の施工に関する各種標識類、各種保安施設、防護施設、土石流安全対策等の写真であり、万一事故が発生した場合の原因究明及び工事現場の安全管理状況の証拠となるものであり、必ず施設の設置状況が明瞭に判読できるよう撮影すること。
	交通整理	1 回	監視員による交通整理状況を周辺との関連がわかるよう撮影すること。
	安全訓練	実施日毎	安全教育、訓練、パトロール等の活動状況が確認できるよう撮影すること。
使用材料	材料検収	品目毎	当該工事に使用する資材（主として二次製品）の材料検収状況写真であり、使用後に種別、数量、形状、規格、寸法等が確認できない部分を写真で証明するもので、資材を現場に搬入後、使用前に撮影すること。 また、JIS規格品以外については、撮影に際しては規格、形状、寸法等が確認できるよう明示し、測定尺を当て行うこと。 また材料の保管状況も撮影すること。
	品質証明	品目毎	JIS規格品は、JIS表示が確認できるよう撮影すること。
	検査実施状況	品目毎	材料検査の実施状況が確認できるよう撮影すること。

分類	区分	撮影頻度	撮影の要点及び注意事項
品質管理	品質管理	品質管理項目毎	別に定める品質管理基準に係る試験又は測定の実施状況及び結果を証明するもので、明瞭に判読できるよう撮影すること。（3品質管理写真撮影要領を参照） ただし、公的機関で実施された品質管理証明書を保管・整備できる場合は、撮影を省略するものとする。
出来形管理	出来形管理	出来形管理箇所毎	仕様書及び設計図書に明示された工事目的物の出来形（形状、規格、寸法、品質等）を詳細に撮影し、管理写真で対比して証明するものである。このため基本的には出来形管理箇所毎に撮影するものとし、工種毎の撮影箇所等は、2工種別撮影要領によること。 ①後日明視出来ない地中等に埋設（没）する部分や水中に沈む部分は、特に嚴重な出来形（形状、規格、寸法、品質等）管理写真を撮影し、写真で設計図書どおりであることを確認の後、埋戻しや上方の盛土を行うこと。 ②検尺、リボンテープなどで出来形を撮影する場合は、斜め上、下、横からの撮影はせず正面から写すこと。なお、検尺等の目盛ははっきり判読できるよう撮影すること。また、場合によっては部分拡大写真の併用を考慮すること。 ③薄暗い箇所での写真撮影は、ストロボ、照明等を使用して撮影し、撮り損ないのないことを確認の後、次の作業工程に着手すること。 ④完成後測定可能な部分（工事が完成したときに隠れる部分以外）については、出来形管理状況がわかる写真を細別毎に1回撮影し、他は撮影を省略出来るものとする。 ただし、足場等を設置しないと測定できない部分は撮影すること。
災害	災害報告	その都度	工事途中での集中豪雨（天災）等により災害を受けた場合に、その災害の状況、被災規模がわかるよう記録写真を撮影し、可能であれば被災前及び被災中、被災直後、被災後と整備しておくこと。 また、応急措置状況等も撮影すること。 なお、ここでいう災害とは、工事請負契約書第27条、28条、29条で規定する損害を指し、請負工事施工中における、これらの災害についての費用負担区分の判定に必要な資料として、欠かすことのできない写真であるので、十分留意して撮影すること。
事故	事故報告	その都度	事故が発生した場合に、事故の状況、発生要因等がわかるよう記録写真を撮影し、発生前、発生直後、発生後と整備しておくこと。
その他	測量標等	その都度	測量標（仮BM）、工事多角点等の設置位置、設置状況、基準高、構造物との関連性がわかるよう撮影すること。
	補償関係	その都度	用地、立木補償等に係る収去状況写真の撮影すること。 また、工事中の振動等によるクラック等、工事の施工に起因すると思われる補償問題が、あらかじめ予想される場合は、想定影響区域より相当広範囲の事物を対象に、施工前の状況を撮影しておくこと。
	環境対策等	その都度	公害対策、環境保全対策、イメージアップ等の施設の設置状況写真の撮影すること。
	現場事務所等	その都度	現場事務所、労務者休憩所、資材倉庫、火薬庫、仮設トイレ、その他仮設物等の設置状況を撮影すること。
	ICT施工技術の活用	その都度	以下の点に留意して撮影すること。 ①3次元計測技術の設置状況がわかること。 ②工事名、工種等、計測測点（測点・箇所）を記述すること。 （設計・実測寸法、略図は省略可）※写真測量の場合は①②は不要
	段階確認 中間検査 完成検査	その都度	監督員が求めた場合は、段階確認、立会、中間検査、完成検査の実施状況写真の撮影すること。 監督員（検査員）の確認（検査）状況並びに、該当項目の完了が判断できるよう撮影すること。 黒板には段階確認（検査）を行う種別、細別、確認項目、監督員（検査員）氏名を記入して撮影すること。

2 工種別撮影要領

(1) 共通工事

工 種	種 別	撮影項目	撮影頻度	撮影の要点及び注意事項
土工	伐開、除根	施工前後の状況	施工前1回 施工後1回	- 伐開、除根作業の実施状況が、着手前写真と完了後写真により対比して確認できるよう同一箇所から撮影する。 - 局所的写真では、同じ施工地かどうか判然としないので注意して撮影する。
	丁 張	丁張架設	架設後1回	丁張架設後、架設位置、工事箇所全体の架設状況がわかるよう局部及び全景写真を撮影する。
	掘削(切取)盛土	仕上がり幅 法長、法勾配	No.測点毎 ただし、 ※1の場合 1工事に1回 ※2の場合 写真管理に代えることができる	- 掘削、盛土完了後に、各部の寸法が確認できるよう測定尺を添えて撮影するが、展開図等で別途確認できる手段がある場合は省略可とする。 - 土質が変化した場合、土質とその区分線が確認できるよう測定尺を添えて撮影する。 - 転石交り土は、転石の大きさ、混合歩合、転石層の位置等が確認できるよう局部と全体を対比して撮影する。 - 崩壊、欠損の恐れのある箇所は、その規模、亀裂の状況等がわかるよう撮影する。 ※1 発注者が指定する規定による場合〔掘削後〕 ※2 発注者が指定する規定における空中写真測量(UAV)および地上写真測量に基づき写真測量に用いた画像を納品する場合
	床掘埋戻し	床掘状況 基面整形状況 土質区分 転圧状況	1 施工箇所 毎 変化点毎 ただし、 ※1の場合 1工事に1回 ※2の場合 写真管理に代えることができる	- 床掘の施工状況がわかるように撮影する。 - 床掘完了後、基礎が土砂の場合は床掘面の転圧整形状況、岩の場合は岩盤整形状況がわかるように撮影する。 - 床掘幅、土質区分が確認できるように撮影する。 - 埋戻し材の土質、蒔出し、転圧の状況がわかるよう撮影する。 ※1 発注者が指定する規定による場合〔掘削後〕 ※2 発注者が指定する規定における空中写真測量(UAV)および地上写真測量に基づき写真測量に用いた画像を納品する場合
基礎工	コンクリート基礎	幅、高さ	1 施工箇所 毎 変化点毎	- 型枠の設置状況、コンクリートの打設、養生等の施工状況がわかるように撮影する。 - 脱枠後、幅、高さ等の寸法が確認できるように測定尺を当てて撮影する。(延長については不要とし、測点の位置がわかる施工状況写真を撮影する。)
	栗石等基礎	幅、厚さ	1 施工箇所 毎 変化点毎	- 栗石の敷均し、締固め、目潰し仕上げ等の施工状況がわかるように撮影する。 - 栗石等基礎仕上げ後に、幅、厚さ等の寸法が確認できるように測定尺を当てて撮影する。(延長については不要とし、測点の位置がわかる施工状況写真を撮影する。)
	胴 木 梯子土台	径、幅 長さ	1 施工箇所 毎	- 土台木組立据付け後、部材寸法、組立寸法、据付け寸法等が確認できるように測定尺を当てて撮影する。 - 杭打胴木、片梯子土台の杭は予め目盛をつけ、杭を打込んだ時点で根入長が確認できるように測定尺を当てて撮影する。

(1) 共通工事

工 種	種 別	撮影項目	撮影頻度	撮影の要点及び注意事項
基礎工	木 杭	杭の径、長さ 位置、杭間隔	1 施工箇所 毎	- 杭に予め目盛をつけ、杭を打込んだ時点で根入長が確認できるように測定尺を当てて撮影する。 - 打込み完了後施工位置、杭間隔等が確認できるように測定尺を当てて撮影する。 - 全長の打込みが不可能で頭部を切断する場合は切断前に撮影する。
	コンクリート杭 鋼管杭 H形鋼杭 深礎杭 場所打杭	位置、杭間隔 根入長、偏心	1 施工箇所 毎	- 材料搬入時に、規格、形状、寸法等が確認できるように測定尺を当てて撮影する。 - 杭に予め目盛をつけ、杭を打込んだ時点で根入長が確認できるように測定尺を当てて撮影する。 - 打込み完了後施工位置、杭間隔、偏心等が確認できるように測定尺を当てて撮影する。
	石積(張)エ ブロック積 (張)エ	基礎工		前記基礎工に準じて撮影する。
擁壁工	石積(張)エ ブロック積 (張)エ コンクリート擁壁工	施工状況	1 施工箇所 毎	- 石又はブロックの築積、胴込コンクリート充填、裏込礫充填抜き型枠、水抜きパイプ等の施工状況がわかるよう撮影する。 (根石、中段部2箇所程度、天端の局部写真及び全景写真)
		厚 さ	測点又は変 化点毎	胴込コンクリート、裏込礫の厚さを根石、中段部2箇所程度、天端について、確認できるように測定尺当てて撮影する。
		法長又は高 さ 施工延長 法勾配	測点又は変 化点毎	- 積(張)工完了後、法長又は高さ及び施工延長、法勾配が確認できるように測定尺を当てて撮影する。 (局部写真及び全景写真)
		基礎工		前記基礎工に準じて撮影する。
	コンクリート擁壁工	型 枠	1 施工箇所 毎	- 型枠の構造(メタルフォーム、コンパネ等)、架設状況、清掃状況、剥離剤の塗布状況、フォームタイの状況、セパレーターの取付け状況、鉄筋、鉄線の締付け状況、縦横バタの設置状況等がわかるように撮影する。 - 鉛直仕切型枠、目地(エラストイト等)の設置状況がわかるように撮影する。 - 幅等がわかるよう検測尺、箱尺、リボンテープ等で寸法表示し、型枠の組立てを行った底盤部及び構造の変化点を撮影する。
		足 場	1 施工箇所 毎	足場の構造(単管、キャットウォーク等)、架設状況(安全性)がわかるように局部及び全景を撮影する。
		コンクリートの投入打設	1 施工箇所 毎	- 運搬方法、運搬状況がわかるように撮影する。 - 投入打設(人力、トラッククレーン、ポンプ車等)状況が、よくわかるように局部及び全景を撮影する。 - パイプレーターによる締め固め、人力による突き固め作業等の状況がよくわかるように撮影する。 - 打継目の処理(レイタンス除去、洗浄、清掃、敷きモルタル等)作業の状況、その他打設準備の状況がよくわかるように局部及び全景を撮影する。 - 養生マット類の掛け方、散水(保湿)方法、保温方法等、養生の状況がよくわかるように撮影する。

(1) 共通工事

工 種	種 別	撮影項目	撮影頻度	撮影の要点及び注意事項
擁壁工	コンクリート擁壁工	高さ（法長）、幅、延長、法勾配	変化点毎	- 脱枠後埋戻し前に、幅、高さ（法長）、法勾配、延長等の出来形寸法が確認できるように測定尺を当て、局部及び全景を撮影する。 - 床幅は、型枠締付け後変化点ごと、型枠内に測定尺を当てて撮影する。
		鉄筋コンクリート壁の配筋	1 施工箇所毎	鉄筋組立て後、鉄筋の径、組立寸法（間隔、位置）が確認できるように測定尺を当て、局部及び全景を撮影する。
	プレキャスト擁壁工	基礎工		前記基礎工に準じて撮影する。
		敷モルタル	1 施工箇所毎	モルタルの配合、練り混ぜ、敷設状況及び敷幅がわかるように撮影する。
		据 付	1 施工箇所毎	トラッククレーン等による、据付作業の状況がわかるように撮影する。
		目地モルタル	1 施工箇所毎	モルタルの施工状況、仕上げ状況がわかるように撮影する。
	コンクリート鍬止工	高さ、延長、傾き	変化点毎	据付、目地モルタル完了後埋戻し前に、変化点ごとの高さ、延長、壁の傾き等の出来形寸法が確認できるように測定尺を当て、局部及び全景を撮影する。
		基礎工		前記基礎工に準じて撮影する。
		型 枠	1 施工箇所毎	型枠の構造、架設状況等がわかるように撮影する。
		コンクリート投入打設	1 施工箇所毎	- 投入方法及び打設状況がわかるように撮影する。 - バイブレーター等による締固め状況がわかるよう撮影する。 - 養生マット等による養生の状況がわかるように撮影する。
	巨石積（張）工	幅、高さ、延長	測点又は主要点毎	脱枠後埋戻し前に、幅、高さ及び施工延長等の出来形寸法が確認できるように測定尺を当て、局部及び全景を撮影する。
		石積（張）工に準ずる		前記石積（張）工に準じて撮影する。
	補強土壁工	基礎工		前記基礎工に準じて撮影する。
		壁面材、控え材組立	各段毎	部材の組立状況及び組立寸法が確認できるように測定尺を当てて撮影する。（特に、控え材は埋没するため検査時に敷設長さの出来形寸法が確認できるように撮影する。）
		埋戻し	3 段毎	埋戻し材の土質、蒔出し、敷均し及び転圧状況がわかるように撮影する。
		壁高 法勾配 延長	変化点毎	壁材組立て完了後、高さ（法長）、法勾配、延長等の出来形寸法が確認できるように測定尺を当て、局部及び全景を撮影する。
矢板工	鋼矢板 軽量鋼矢板 コンクリート矢板 幅広鋼矢板	位置、根入長 偏心量、延長	規格毎	- 材料搬入時に、規格、形状、寸法等が確認できるように測定尺を当てて撮影する。 - 矢板に予め目盛をつけ、杭を打込んだ時点で根入長が確認できるように測定尺を当てて撮影する。 - 打込み完了後施工位置、偏心量、施工延長等が確認できるように測定尺を当てて撮影する。

(1) 共通工事

工 種	種 別	撮影項目	撮影頻度	撮影の要点及び注意事項
水路（側溝）工	U型溝、L型溝 U型フルム溝 自由勾配側溝 コレクト水路等	基礎工		・ 前記基礎工に準じて撮影する。
		形状、寸法 施工状況	規格毎	・ 材料搬入時に、種別ごとの検収状況を撮影する。 また、JIS規格品以外については、形状、寸法がわかるように測定尺を当てて撮影する。 ・ JIS規格品は、JIS表示が確認できるように撮影する。 ・ 製品の敷設状況及び目地モルタル等の施工状況がわかるように、局部及び全景を撮影する。 ・ 暗渠工については、管敷設時の出来形管理写真（延長）は不要とし、測点の位置がわかる施工状況写真を撮影する。
	横断溝 （補強コンクリート）	基礎工		・ 前記基礎工に準じて撮影する。
		高さ、幅 厚さ、延長	1 施工箇所 毎	・ 型枠の種別、架設状況がわかるように撮影する。 ・ コンクリートの投入打設、締固め、養生の状況がわかるように撮影する。 ・ 脱枠後、高さ、幅、厚さ、延長が確認できるように測定尺を当てて撮影する。
	集水枡	基礎工		・ 前記基礎工に準じて撮影する。
		高さ、幅 厚さ	1 施工箇所 毎	・ 型枠の種別、架設状況がわかるように撮影する。 ・ コンクリートの投入打設、締固め、養生の状況がわかるように撮影する。 ・ 脱枠後、高さ、幅、厚さ、延長が確認できるように測定尺を当てて撮影する。
管渠工	ヒューム管 PC管 PCボックス	基礎工		・ 前記基礎工に準じて撮影する。
		布設	1 施工箇所 毎	・ トラッククレーン等による管渠の据付状況を撮影する。 ・ 目地モルタルの施工状況がわかるように撮影する。
		巻立て	1 施工箇所 毎	・ 型枠の種別、架設状況がわかるように撮影する。 ・ コンクリートの投入打設、締固め、養生の状況がわかるように撮影する。
		高さ、幅 厚さ、延長	1 施工箇所 毎	・ 脱枠後、高さ、幅、厚さ、延長等の出来形が確認できるように測定尺を当て、局部及び全景を撮影する。
柵工	編柵工 丸太柵工 二次製品柵	材 料	1 施工箇所 毎	・ 材料搬入時に、種別ごとの検収状況及び形状、寸法がわかるように測定尺を当てて撮影する。
		柵高、杭根入	1 施工箇所 毎	・ 柵高、杭根入、杭間隔等の出来形が確認できるように測定尺を当て、局部及び全景を撮影する。
法面覆工	筋芝工 張芝（伏）工 植生ネット工 種子吹付工 客土吹付工 植生基材吹付工	施工状況	種別毎	・ 人工芝、野芝、植生ネット等の布設状況、目串、止アンカー及び人工芝の客土等、施工状況がわかるように撮影する。（200㎡につき1箇所） ・ 法面の整形（清掃）状況がわかるように撮影する。 ・ 吹付工のネット、ラス張り重ね合せ幅、止アンカーの打設本数が確認できるように測定尺を当て、局部及び全景を撮影する。 ・ 吹付作業の状況がわかるように撮影する。
		材料使用量	種別毎	・ 1バッチ当りの材料使用量は、配合前の計量数値で、また種別ごとの材料総使用量は、空袋、空缶等の数量で確認できるように撮影する。
		施工範囲 厚さ	1 施工箇所 毎	・ 施工範囲が確認できるように局部及び全景を撮影する。 ・ 主要点を設定した検査孔により、吹付厚さが確認できるように測定尺を当てて撮影する。

(1) 共通工事

工 種	種 別	撮影項目	撮影頻度	撮影の要点及び注意事項
法面覆工	コンクリート吹付工 モルタル吹付工	施工状況	種別毎	- 法面の整形（清掃）状況がわかるように撮影する。 - ラス張り重ね合せ幅、止アンカーの打設本数が確認できるように測定尺を当て、局部及び全景を撮影する。 （200㎡につき1箇所） - 吹付作業の状況がわかるように撮影する。
		材料使用量	種別毎	1バッチ当りの材料使用量は、配合前の計量数値で、また種別ごとの材料総使用量は、空袋等の数量で確認できるように撮影する。
		施工範囲 厚さ	1 施工箇所 毎	- 施工範囲が確認できるように局部及び全景を撮影する。 - 主要点を設定した検査孔により、吹付厚さが確認できるように測定尺を当てて撮影する。
	法枠工 （コンクリート） （モルタル）	施工状況	種別毎	- 法面の整形（清掃）状況がわかるように撮影する。 - ラス張り重ね合せ幅、止アンカーの打設本数が確認できるように測定尺を当て、局部及び全景を撮影する。 （200㎡につき1箇所） - 吹付型枠の組立て、設置状況が確認できるように撮影する。 - 型枠内の鉄筋組立て、配筋間隔、主アンカー、補助アンカーの打設間隔及び数量が確認できるように測定尺を当て、局部及び全景を撮影する。 - 吹付作業の状況がわかるように撮影する。
		材料使用量	種別毎	1バッチ当りの材料使用量は、配合前の計量数値で、また種別ごとの材料総使用量は、空袋等の数量で確認できるように撮影する。
		施工範囲 枠の幅、高さ 厚さ 枠中心間隔	1 施工箇所 毎 ただし、 ※1の場合 写真管理に 代えることが できる	- 施工範囲が確認できるように局部及び全景を撮影する。 - 任意に主要点を設定し、枠の幅、高さ、厚さ、中心間隔等の出来形が確認できるように測定尺を当て、局部及び全景を撮影する。 ※1 発注者が指定する規定に基づき写真測量に用いた画像を納品する場合
	落石防止 ネット張工	施工状況	1 施工箇所 毎	- 支障木の伐開、除去、整理及び法面の清掃状況を撮影する。 - 岩盤アンカーの掘孔、挿入、土中アンカーの打込み状況及び中間支柱建込み状況等を撮影する。 縦、横主ロープ張り、締付け、固定、縦、横補助ロープ張り固定状況及び金網の設置、固定状況等を撮影する。
		施工範囲 縦横ロープ間隔 金網の縦横長さ 金網の重ね合せ幅	1 施工箇所 毎	- 施工範囲が確認できるように局部及び全景を撮影する。 - 任意の点で、縦横主及び補助ロープ間隔の出来形が確認できるように測定尺を当て、局部及び全景を撮影する。 - 任意の点で、金網の重ね合せ幅が確認できるように測定尺を当て、局部及び全景を撮影する。

(1) 共通工事

工 種	種 別	撮影項目	撮影頻度	撮影の要点及び注意事項
根固め工	じゃ籠工	厚さ、長さ 施工延長	1 施工箇所 毎	・ 籠組立て、中詰め栗石等の施工状況がわかるように撮影する。 ・ 完成後の、じゃ籠の厚さ、長さ及び施工延長の出来形が確認できるように測定尺を当て、局部及び全景を撮影する。
	ふとん籠工	幅、高さ 長さ 施工延長	1 施工箇所 毎	・ 籠組立て、中詰め栗石等の施工状況がわかるように撮影する。 ・ 完成後の、ふとん籠の幅、高さ、長さ及び施工延長の出来形が確認できるように測定尺を当て、局部及び全景を撮影する。
	沈床工	幅、高さ 施工延長	1 施工箇所 毎	・ 沈床枠組立据付け後、部材寸法、組立寸法、据付寸法及び幅、高さ、施工延長等の出来形が確認できるように、測定尺を当てて撮影する。 ・ 中詰め栗石の形状及び投入状況がわかるように撮影する。
	コンクリートブロック	製作寸法	1 施工箇所 毎	・ 型枠の組立状況、組立寸法及びコンクリートの投入打設状況がわかるように撮影する。 ・ 脱枠後、幅、高さ、長さが確認できるように測定尺を当て、局部及び全景を撮影する。
		据 付	1 施工箇所 毎	・ クレーン等による据付作業の状況がわかるように撮影する。 ・ 据付完了後、施工幅、延長の出来形が確認できるように、測定尺を当てて撮影する。
	異形（消波）ブロック	製作寸法	1 施工箇所 毎	・ 型枠の組立状況及びコンクリートの投入打設状況がわかるように撮影する。 ・ 脱枠後、幅、高さ、厚さが確認できるように測定尺を当て、局部及び全景を撮影する。
		据 付	1 施工箇所 毎	・ クレーン等による据付作業の状況がわかるように撮影する。 ・ 据付完了後、施工幅、延長の出来形が確認できるように、測定尺を当てて撮影する。
海岸工	コンクリート上部工 コンクリート天端工 コンクリート下部工	基礎工		・ 前記基礎工に準じて撮影する。
		型 枠	1 施工箇所 毎	・ 型枠の構造、架設状況、剥離剤の塗布状況、型枠の清掃状況、セパの取付け状況、鉄線、鉄筋の締付け状況等がわかるように撮影する。
		配 筋	1 施工箇所 毎	・ 鉄筋組立後、鉄筋の径、組立寸法（間隔）が確認できるように、測定尺を当てて撮影する。
		足 場	1 施工箇所 毎	・ 足場の構造、架設状況がわかるように撮影する。
		コンクリートの投入打設	1 施工箇所 毎	・ 運搬方法、運搬状況がわかるように撮影する。 ・ 投入打設、締固め、突固め、打継目処理、養生作業の状況がわかるように撮影する。
		高さ（法長） 幅、延長 法勾配	測点又は変化点 毎	・ 脱枠後埋戻し前に、高さ（法長）、幅、法勾配、延長等の出来形寸法が確認できるように、測定尺を当て、局部及び全景を撮影する。 ・ 底幅は、型枠締付け後測点又は変化点ごとに、型枠内に測定尺を当てて撮影する。

(1) 共通工事

工 種	種 別	撮影項目	撮影頻度	撮影の要点及び注意事項
植樹工	高木、中木 低木、株物	樹高、幹回り 枝張、葉張	樹種毎	・ 大苗、中苗は、樹高、幹回り、枝張りが確認できるように測定尺を当て、局部及び全景を撮影する。 ・ 小苗、株物は、樹高、葉張り、株立数が確認できるように測定尺を当て、局部及び全景を撮影する。 ・ 植穴の幅、高さがわかるように測定尺を当てて撮影する。 ・ 1本当りの肥料の計量状況及び施肥の状況を撮影する。 ・ 支柱材料を種別ごとに、規格、寸法がわかるように測定尺を当てて撮影する。 ・ 植栽木への支柱の取付け状況がわかるように撮影する。
道路安全 施設	小型標識 カーブミラ ー	基礎の幅 高さ	1 施 工 箇 所 毎	・ 型枠の組立状況及びコンクリートの投入打設状況がわかるように撮影する。 ・ 脱枠後、基礎の幅、高さが確認できるように測定尺を当てて撮影する。 ・ 標識等の取付け状況がわかるように撮影する。
	ガードレール ガードケーブル	基礎工 支柱建て込み レール取付け	1 施 工 箇 所 毎	・ 支柱の土中建て込み状況を使用器械を含め撮影する。 ・ 構造物建て込みの場合、鉄筋の加工組立状況及び配筋の間隔ができるように測定尺を当てて撮影する。 ・ 型枠の組立状況及びコンクリートの投入打設状況がわかるように撮影する。 ・ 脱枠後、基礎の幅、高さが確認できるように測定尺を当てて撮影する。 ・ レール等の取付け、締め付け作業の状況がわかるように撮影する。

(2) 治山溪間工事

撮影区分	撮影事項	撮影頻度	撮影の要点及び注意事項
一般			次に示すもののほか、(1) 共通工事に準ずるが施工段階の状況がよくわかるよう撮影する。
伐開、除根	施工前後の状況	施工前1回 施工後1回	(1) 共通工事に準じるが、立木収去補償は、収去状況がわかるよう撮影する。
丁張	丁 張	架設後1回	方向線、天端丁張、提体丁張及び丁張の架設状況の全景を撮影する。
廻排水	廻排水、締切	1 施工箇所毎	廻排水、締切等の方式、構造、位置がわかるように撮影する。同時に平水位の状態を撮影する。
	水 替	1 施工箇所毎	排水の方法（ポンプ）等、状況がわかるように撮影する。
床掘	床掘状況	1 施工箇所毎	- 土質の状況、床掘方法、床掘状況等を撮影する。 - 床掘状況は一連の流れ（床掘前～床掘中～床掘完了）がわかる写真とする。
	基礎の状況	1 施工箇所毎	掘り過ぎ箇所、補強状況、基礎部分が土砂の場合は掘削面仕上げ、岩盤の場合は洗浄状況、敷モルタルの状況、湧水がある場合は、その処理状況を撮影する。
	床掘確認	1 施工箇所毎 ただし、 ※1の場合 1工事に1回 ※2の場合 写真管理に代 えることがで きる	- 深さ、幅、長さ、土質区分等が確認できるよう検測尺、箱尺、リボンテープ等で寸法表示し撮影する。 - 止水壁、袖部分の突込み、提底部分等各部分についても寸法、位置がわかるよう撮影する。 - 岩盤清掃及び掘削面仕上げ、法面処理状況、捨土の処理状況もわかるように撮影する。 ※1 発注者が指定する規定による場合〔掘削後〕 ※2 発注者が指定する規定における空中写真測量（UAV）および地上写真測量に基づき写真測量に用いた画像を納品する場合
足場	足場の状況	1 施工箇所毎	足場の組み方、足場の位置、規模、構造（単管、キャットウォーク）がわかるように撮影する。また、コンクリート小運搬足場等についても、その組み方、規模、位置を撮影する。足場の組替えをした時は、その都度撮影する。
型枠	型枠管理の状況	1 施工箇所毎	- 型枠の構造取付けの状況、洗浄、剥離剤の塗布の状況、特にフォームタイの状況、丸セパレーターの取付状況、鉄筋、鉄線の締付け状況、縦バタ、横バタの状況がわかるように撮影する。 - 幅等がわかるよう検測尺、箱尺、リボンテープ等で寸法表示し、型枠の組立てを行った底盤部及び構造の変化点を撮影する。 - 残存型枠については、設置状況を撮影する。

(2) 治山溪間工事

撮影区分	撮影事項	撮影頻度	撮影の要点及び注意事項
コンクリート	一 般		・ ポール、箱尺、リボンテープ等を用いて寸法を表示する。特に基礎部分等明視できなくなる部分については入念に撮影する。
	鉄筋組立て	1 施工箇所毎	・ 組立、寸法、間隔の検測寸法がわかるように撮影する。
	コンクリートの運搬	1 施工箇所毎	・ 運搬方法、運搬状況がわかるように撮影する。
	打込み	1 施工箇所毎	・ ポンプ車、トラッククレーン等による打込みの状況、シュートの使い方がわかるように撮影する。
	締固め	1 施工箇所毎	・ バイブレーター、突き棒等による締固めの状況がわかるように撮影する。
	打継目の処理	リフト毎	・ 清掃、洗浄、レイトンスの取除き作業、敷モルタル、その他打設準備の状況について撮影する。
	継目止水板取付け	1 施工箇所毎	・ 継目の処理、止水板の取付け状況を撮影する。
	表面仕上げ	1 施工箇所毎	・ ボルト穴等の跡埋め及びその他表面仕上げの状況を撮影する。
	養生	1 施工箇所毎	・ 養生マット、保護シート、散水方法等養生の状況がわかるように撮影する。
	挿し筋本数の確認	リフト毎	・ 挿し筋の設置寸法及び単位面積当たりの施工本数及び型枠から挿し筋までの間隔がわかるように局部・全景を撮影する。
コンクリートブロック	コンクリートブロックの施工状況	1 施工箇所毎	・ ブロックの積み方、目地のつけ方、胴込コンクリートの打込み等の施工状況がわかるように撮影する。 ・ 水抜きパイプの据付施工状況についても撮影する。
	裏込材料及び施工状況	1 施工箇所毎	・ 裏込の施工状況について撮影する。裏込材料がコンクリートの場合はコンクリートに準じるが、裏込が礫の場合は材料の品質規格、充てんの状況等について撮影する。
	その他		・ 共通工事のよう壁工に準じて撮影する。
鋼製ダム	鋼材の組立	1 施工箇所毎	・ 鋼材の仮組立及び本締め等の施工状況を撮影する。
その他の工種	施工状況、出来形寸法等		・ 共通工事に準じて撮影する。 ・ 特に明視できなくなる部分は工事施工が適正であることを証明できるよう撮影する。
間詰、埋戻し	間詰、埋戻しの施工状況	1 施工箇所毎	・ 施工前、施工中、施工後の状況、特に明視できなくなる部分は、寸法がわかるように撮影する。

(3) 治山山腹工事

撮影区分	撮影事項	撮影頻度	撮影の要点及び注意事項
一般			次に示すもののほか、(1) 共通工事 (2) 治山溪間工事に準ずるが各工種の施工段階の状況がよくわかるよう撮影する。
法切	法切状況	1 施工箇所毎	施工前、施工中、施工後の状況を撮影する。
基礎工	土留コンクリート 暗渠工、柵工等	1 施工箇所毎	溪間工に準ずるが特に埋設工、暗渠工のように明視できなくなる部分は入念に撮影する。
暗渠工	ボーリング暗渠工	1 施工箇所毎	- ボーリングの穿孔位置、配列方向、勾配等がわかるように撮影する。 - ストレーナーの大きさ及び配置の状況を撮影する。 - 地下水の湧水状況（穿孔後約 1 時間経過後）を撮影する。
集水井工 シャフト工	掘削状況	1 施工箇所毎	0.5～1.0m毎に箱尺、リボンテープ等で寸法表示し掘削状況がわかるように撮影する。 - 地層の変わり目、化石、亀裂等の状況を撮影する。 - 掘削中の崩壊、湧水等の異常について特に入念に撮影する。 - 最終基礎地盤の状況も撮影する。
杭打工	鋼管杭	1 施工箇所毎	- 現場に搬入された杭は、番号を付し検査の状況を撮影する。 - 杭を現場溶接する場合は、杭番号、溶接位置がわかるように撮影する。 - 削孔間隙の充填、中詰め作業の状況を撮影する。 - 当初の設計長を必要としない場合の切断状況をリボンテープ等で寸法表示しながら撮影する。
アンカー工	施工状況等	1 施工箇所毎	- 搬入された材料の規格、保管等の状況を撮影する。 - アンカーの削孔位置、長さ及び方向がわかるように撮影する。 - アンカー体及び引張材の挿入状況を撮影する。 - 適正試験、確認試験の状況を撮影する。
その他の工種	施工状況、出来形 寸法等		(1) 共通工事に準じるが、施工位置、施工状況等がわかるように撮影する。

(4) 道路工事

撮影区分	撮影事項	撮影対象	撮影頻度	撮影の要点及び注意事項
一般				次に示すもののほか、(1) 共通工事に準ずるが施工段階の状況がよくわかるよう撮影する。
土工	伐開、除根	・作業前後の状況	施工前1回 施工後1回	(1) 共通工事に準じるが、立木収去補償は、収去状況がわかるよう撮影する。
	切土、盛土	- 作業前後の状況 - 土質の変化点 - 崩壊、決壊の恐れのある箇所 - 盛土の段切箇所	1 施工箇所毎 ただし、 ※1の場合 1 工事に1回 ※2の場合 写真管理に代えることができる	(1) 共通工事の土工に準じて撮影する。 - 切土は機械施工と人力施工のそれぞれの作業状況がわかるように撮影する。 - 大盛土箇所(1,000m³以上)毎に、撒出し及び転圧作業の状況(使用機械等・転圧回数)がわかるように1回撮影する。 また、大盛土箇所は、小段間毎に丁張を設置し3層分の撒出し前、転圧完了後の写真を撮影する。(小段間数×3層) - 軟弱地盤で工事中に地盤の不等沈下及び法面の滑動等の恐れのある箇所は、その規模、亀裂の状況等がわかるように撮影する。 - 切土、盛土法面仕上げの状況を撮影する。 ※1 発注者が指定する規定による場合〔掘削後〕 ※2 発注者が指定する規定における空中写真測量(UAV)および地上写真測量に基づき写真測量に用いた画像を納品する場合
	指定土取場 残土処理場	・作業前後の状況	1 施工箇所毎	地形、規模等が作業前後の状況と対比してわかるように撮影する。また、土工作業及び仕上げの状況を撮影する。
擁壁工等	基礎工 石積(張)・ブロック積(張)エ コンクリート擁壁エ プレキャスト擁壁工 補強土壁工	・箇所ごとの施工状況及び出来形		(1) 共通工事の擁壁工に準じて撮影する。
	水替え	- 締切り、廻排水 - 水替え	1 施工箇所毎	- 締切り、廻排水の種別、形状、寸法及び施工状況がわかるように撮影する。 - 水中ポンプ等による水替えの状況を撮影する。
舗装工 (簡易舗装)	路盤工 (置換) (安定処理)	- 路盤材料 - 処理材の配合 - 敷込み、転圧 - 敷幅、敷厚	1 施工箇所毎	- 材料の採取場所の全景、材料の集積篩い分け、積込作業の状況を撮影する。 - 処理材の配合量及び配合状況がわかるように撮影する。 - 敷込み前の路床の状態及び敷込み、転圧の状況がわかるように撮影する。 - 出来形管理箇所毎に、敷幅、敷厚が確認できるよう測定尺を当て撮影する。

(4) 道路工事

撮影区分	撮影事項	撮影対象	撮影頻度	撮影の要点及び注意事項
舗装工 (簡易舗装)	路 床	・不陸整正 ・補足材の均し、転圧 ・敷幅	1 施工箇所毎	・ 施工前、後の状態が対比してわかるように撮影する。 ・ 補足材の敷均し、転圧状況と併せて使用機種がわかるように撮影する。 ・ 出来形管理箇所毎に、敷幅がわかるように測定尺を当て撮影する。
	下層路盤工	・材料の搬入 ・敷均し、転圧 ・敷幅、敷厚	1 施工箇所毎 ただし、 ※1の場合 1 工事に 1 回 ※2の場合 写真管理に代えることができる	・ 材料の搬入状況及び搬入車両がわかるように撮影する。 ・ 材料の敷均し、転圧状況と併せて使用機種がわかるように撮影する。 ・ 出来形管理箇所毎に、敷幅、敷厚がわかるように測定尺を当て撮影する。 ※1 発注者が指定する規定による場合〔掘削後〕 ※2 発注者が指定する規定における空中写真測量 (UAV) および地上写真測量に基づき写真測量に用いた画像を納品する場合
	上層路盤工	・材料の搬入 ・敷均し、転圧 ・敷幅、敷厚	1 施工箇所毎 ただし、 ※1の場合 1 工事に 1 回 ※2の場合 写真管理に代えることができる	・ 材料の搬入状況及び搬入車両がわかるように撮影する。 ・ 材料の敷均し、転圧状況と併せて使用機種がわかるように撮影する。 ・ 出来形管理箇所毎に、敷幅、敷厚がわかるように測定尺を当て撮影する。 ※1 発注者が指定する規定による場合〔掘削後〕 ※2 発注者が指定する規定における空中写真測量 (UAV) および地上写真測量に基づき写真測量に用いた画像を納品する場合
	表層工	・乳剤、砂散布 ・合材の搬入 ・舗設、転圧 ・舗設幅、厚さ	1 施工箇所毎 ただし、 ※1の場合 1 工事に 1 回 ※2の場合 写真管理に代えることができる	・ 乳剤及び砂の散布状況がわかるように撮影する。 ・ 合材の搬入状況及び搬入車両がわかるように撮影する。 ・ 合材の舗設、転圧の状況と併せて使用機種の組合せがわかるように撮影する。 ・ 出来形管理箇所毎に、舗設幅がわかるように測定尺を当て撮影する。 ※1 発注者が指定する規定による場合〔掘削後〕 ※2 発注者が指定する規定における空中写真測量 (UAV) および地上写真測量に基づき写真測量に用いた画像を納品する場合
	アスカーブ	・舗設	1 施工箇所毎	・ 舗設作業の状況がわかるように撮影する。
	区画線	・舗設	1 施工箇所毎	・ 舗設作業の状況がわかるように撮影する。

(4) 道路工事

撮影区分	撮影事項	撮影対象	撮影頻度	撮影の要点及び注意事項
橋梁工	鋼橋各部材製作	・加工、製作 ・仮組立精度	1 施工箇所 毎	・ 使用鋼材の規格、寸法の検測状況を撮影する。 ・ 鋼材の切断、さく孔、溶接等の作業状況を撮影する。 ・ 仮組立検査において、桁の全長、支間長及び主桁、主構の中心間距離、主構の組立高さ等の出来形寸法の検測状況を撮影する。
	鋼橋塗装	・ 塗装厚	1 施工箇所 毎	・ 素地調整前、整前中、完了時の各作業状況を撮影する。 ・ 各段階別の塗装前、塗装中、完了時の各作業、塗装膜厚検査の状況を撮影する。 ・ 塗装のためのケレンはケレン前後を対比して撮影する。 ・ 塗装は種別ごとに、使用前及び完了後に集積して数量が把握できるように撮影する。
	鋼橋継手工	・ 継手精度	1 施工箇所 毎	・ 主桁、主構の現場継手の施工状況を撮影する。 ・ 主桁、主構の継手部のすき間等の検査状況を撮影する。
	支承工	・ 据付け	1 施工箇所 毎	・ 据付けの状況を撮影する。 ・ 据付け高さ及び支承の中心間間隔、水平度等の出来形寸法の検測状況を撮影する。
	架設工	・ 架設精度	1 施工箇所 毎	・ 架設全設備及び架設設備の稼働中、据付け等作業の状況が関連してわかるように撮影する。 ・ 落橋防止装置の取付状況を撮影する。 ・ 据付け完了後、桁の全長、支間長及び桁、トラスの中心距離等の出来形寸法の検測状況を撮影する。
		・ 架設支保工	1 施工箇所 毎	・ 支保工の組立状況及び組立完了後の状態（寸法を含む）がわかるように撮影する。
	床版工 地覆工	・ 型枠、足場 ・ 鉄筋加工、組立 ・ コンクリート打設 ・ 出来形	1 施工箇所 毎	・ 型枠組立状況（寸法を含む）及び足場架設状況を撮影する。 ・ 鉄筋員数、径、組立間隔、交点の緊結、型枠との間隔等が確認できるように撮影する。 ・ コンクリートの投入打設、締固め、突き固め作業の状況及び養生方法等を撮影する。 ・ 床版の幅、厚さ及び地覆の幅、高さ等の出来形が確認できるように測定尺を当て撮影する。
	P C桁 製作工	・ 型枠、支保工 ・ 鉄筋加工、組立 ・ コンクリート打設 ・ ケーブル工 ・ 出来形	1 施工箇所 毎	・ 型枠、支保工の組立状況がわかるように撮影する。 ・ 鉄筋員数、径、組立間隔、交点の緊結、型枠との間隔等が確認できるように撮影する。 ・ コンクリートの投入打設、締固め、突き固め作業の状況及び養生方法等を撮影する。 ・ ケーブルの挿入及び緊張の状態がわかるように撮影する。 ・ 桁長、幅、高さ等の出来形寸法が確認できるように測定尺を当て撮影する。
	伸縮装置	・ 据付け	1 施工箇所 毎	・ 伸縮装置の据付け状態がわかるように撮影する。

(4) 道路工事

撮影区分	撮影事項	撮影対象	撮影頻度	撮影の要点及び注意事項
橋梁工	R C橋台 橋脚	・型枠、支保工 ・鉄筋加工、組立 ・コンクリート打設 ・出来形 ・基礎工	1 施工箇所 毎	・ 型枠、支保工、足場の組立状況がわかるように撮影する。 ・ 鉄筋員数、径、組立間隔、交点の緊結、型枠との間隔等が確認できるように撮影する。 ・ コンクリートの投入打設、締固め、突き固め作業の状況及び養生方法等を撮影する。 ・ 天端幅、天端長、基礎幅、基礎長、基礎高、壁高等の各部の出来形寸法が確認できるように測定尺を当て撮影する。 ・ (1) 共通工事の基礎工に準じて撮影する。
排水施設	側溝、水路 横断溝 集水桝等	・ 共通工事に準ず		・ (1) 共通工事の水路(側溝)工に準じて撮影する。
管渠工	ヒューム管 P C管 P Cボックス	・ 共通工事に準ず		・ (1) 共通工事の管渠工に準じて撮影する。
柵工	編柵工 丸太柵工 二次製品柵工	・ 共通工事に準ず		・ (1) 共通工事の柵工に準じて撮影する。
法面保護工	筋芝工、張芝工 植生ネット工 種子、客土吹付工 植生基材吹付工 コンクリート・モルタル吹付工 法枠工 落石防止 ネット張工	・ 共通工事に準ず		・ (1) 共通工事の法面覆工に準じて撮影する。
防護施設工	ガードレール 道路標識等	・ 共通工事に準ず		・ (1) 共通工事の道路安全施設に準じて撮影する。
産廃物処理	コンクリート アスファルト 根株等	・ 取壊し ・ 集積 ・ 積込、運搬	1 施工箇所 毎	・ コンクリート、アスファルト類構造物の取壊し状況を撮影する。 ・ 廃棄物の種別ごとの集積状況を撮影する。 ・ 廃棄物の積込、運搬及び処理場への搬入状況を撮影する。
トンネル (N A T M)	支保工	・ 吹付工 ・ ロックボルト工		・ 県土整備部の出来形管理写真撮影箇所一覧表の道路編トンネル(N A T M)に準じて撮影する。
	覆 工	・ 覆工コンクリート ・ 側壁コンクリート ・ 床版コンクリート		
	インバート工	・ インバート工		
	坑内付帯工	・ 地下排水工		

(5) 森林整備

撮影区分	撮影事項	撮影対象	撮影頻度	撮影の要点及び注意事項
森林整備	施工地全景	工事着手前 工事完成時	着手前1回 完成後1回	・ 工事施工ブロックごとに工事着手前の現況と、工事完成時の状態が対比して確認できるように、位置を固定して同一箇所から局部及び全景写真を撮影する
	施工面積	測 量	1 施工地毎	・ 測量作業及び測点杭の設置状況がわかるように撮影する。
	本数調整伐	伐倒本数	1 施工ブロック毎	・ 伐倒、枝払い、玉切り、林内整理作業の施工状況がわかるように撮影する。 ・ 伐倒本数の1%以上撮影する。(根株等に番号を表示する)
	枝落とし	枝落とし本数 枝落とし高さ	1 施工ブロック毎	・ 枝落し作業の施工状況がわかるように撮影する。 ・ 20m×20m=400㎡のプロットを設置し、プロット内の枝落とし本数及び枝落とし高さが確認できるように番号を表示し、測定尺を当てて局部及び全景を撮影する。
	枝落としB	枝落とし高さ	1 施工ブロック毎	・ 枝落し作業の施工状況がわかるように撮影する。 ・ 枝落とし高さが確認できるように番号を表示し、測定尺を当てて拡大及び全景を撮影する(拡大は1標準地につき3本程度)
植栽工 (植林)	地 拵	伐開、筋置 林内整理	1 施工地毎	・ 植栽地の雑木竹等の伐開、筋置、林内整理状況がわかるように撮影する。
	山行用苗 植付け	植付け本数	1 施工ブロック毎	・ 苗木の樹高、幹回の測定状況がわかるように、測定尺を当てて撮影する。 ・ 20m×20m=400㎡のプロットを設置し、プロット内の植付け本数が確認できるように番号等を表示して撮影する。また、プロット内で植穴の幅、高さがわかるように、測定尺を当てて撮影する。
	コンテナ苗 植付け	植付け本数	1 施工ブロック毎	・ 苗木の樹高、根元径、根鉢直径、根鉢高さの測定状況がわかるように、測定尺を当てて撮影する。 ・ 20m×20m=400㎡のプロットを設置し、プロット内の植付け本数が確認できるように番号等を表示して撮影する。また、プロット内で土木工事共通仕様書5-8-2-10の2に規定する植穴の直径、高さがわかるように、測定尺を当てて撮影する。
植栽工	大苗、中苗 小苗、株物	樹高、幹回り 枝張、葉張		・ (1) 共通工事の(1)植栽工に準じて撮影する。
防風工	丸太柵 竹 柵	材料	1 施工地毎	・ 材料搬入時に、種別ごとの検収状況及び形状、寸法がわかるように測定尺を当てて撮影する。
		止杭、支柱の 根入れ	1 施工地毎	・ 杭に予め目盛をつけ、杭を打込んだ時点で根入れ長が確認できるように、測定尺を当てて撮影する。
		柵高	1 施工地毎	・ 施工箇所ごとに、柵高、支柱等の間隔の出来形が確認できるように、測定尺を当てて局部及び全景を撮影する。 ・ 防風柵設置作業の状況がわかるように撮影する。
柵工	丸太柵工	材料、柵高 杭根入		・ (1) 共通工事の柵工に準じて撮影する。

※除伐については枝落としBに準じる

(5) 森林整備

撮影区分	撮影事項	撮影対象	撮影頻度	撮影の要点及び注意事項
防護柵工	鹿ネット工	材料	1 施工地毎	・ 材料搬入時に、種別ごとの検収状況及び形状、寸法がわかるように測定尺を当てて撮影する。
		柵高	1 施工地毎	・ 施工箇所から数スパンを抽出し、柵高、支柱等の間隔の出来形が確認できるように、測定尺を当てて局部及び全景を撮影する。 ・ 鹿ネット設置作業の状況がわかるように撮影する。
作業路 作業歩道	土工	幅員 敷砂利幅、 厚	1 施工地毎	・ 起点、終点、中間点の幅員、敷砂利幅、厚さの出来形が確認できるように、測定尺を当てて局部及び全景を撮影する。

※除伐については枝落としBに準じる

3 品質管理写真撮影要領

工 種	撮影項目	撮影頻度	撮影の要点及び注意事項
セメント コンクリート	スランプ試験 空気量測定 圧縮強度試験 塩化物含有量試験	品質試験実施毎	・ コンクリート打設場所での試験資料の採取状況を撮影する。 ・ 各種試験資料の作成、試験の実施状況及び試験結果を撮影する。
ガス圧接	外観検査 引張試験 超音波探傷試験	品質試験実施毎	・ 各種試験資料の作成状況を撮影する。 ・ 各種試験の実施状況及び試験結果を撮影する。
既製杭工溶接	浸透探傷試験 放射線透過試験 超音波探傷試験	品質試験実施毎	・ 各種試験資料の作成状況を撮影する。 ・ 各種試験の実施状況及び試験結果を撮影する。
路床置換工	締固め密度測定 プルフローリング	品質試験実施毎	・ 各種試験の実施状況及び試験結果を撮影する。
路床土処理工	配合試験	品質試験実施毎	・ 試験資料の作成、試験の実施状況及び試験結果を撮影する。
下層路盤工	締固め密度測定 ふるい分け試験 プルフローリング 平板載荷試験	品質試験実施毎	・ 各種試験の実施状況及び試験結果を撮影する。
上層路盤工 粒度調整路盤 再生粒度調整路盤	締固め密度測定 ふるい分け試験 プルフローリング 平板載荷試験	品質試験実施毎	・ 各種試験の実施状況及び試験結果を撮影する。
上層路盤工 セメント・石灰 安定処理路盤	配合試験 セメント量試験 混合物粒度試験 締固め密度測定 含水比試験	品質試験実施毎	・ 試験資料の作成状況を撮影する。 ・ 各種試験の実施状況及び試験結果を撮影する。
表層工	温度測定 密度測定 抜取コア A s 量抽出試験 抜取コア粒度分析試験 すべり抵抗試験	品質試験実施毎	・ 試験資料の採取及び作成状況を撮影する。 ・ 各種試験の実施状況及び試験結果を撮影する。
転圧コンクリート	コンシステンシー V C 試験 突き固め試験 曲げ強度試験 温度測定 締固め密度測定 コア供試体による密度測定	品質試験実施毎	・ 試験資料の採取及び作成状況を撮影する。 ・ 各種試験の実施状況及び試験結果を撮影する。
アンカー工	セメントミルクの 圧縮強度試験 フロー値試験 塩化物含有量試験	品質試験実施毎	・ 試験資料の採取及び作成状況を撮影する。 ・ 試験の実施状況及び試験結果を撮影する。
	緊張定着適正試験 確認試験	品質試験実施毎	・ 試験の実施状況及び試験結果を撮影する。
ロックボルト工	セメントミルクの 圧縮強度試験 フロー値試験 塩化物含有量試験	品質試験実施毎	・ 試験資料の採取及び作成状況を撮影する。 ・ 各種試験の実施状況及び試験結果を撮影する。
	緊張定着適正試験	品質試験実施毎	・ 試験の実施状況及び試験結果を撮影する。

3 品質管理写真撮影要領

工 種	撮影項目	撮影頻度	撮影の要点及び注意事項
吹付（法枠） 工	配合試験 細骨材の表面水率試験 粗骨材の表面水率試験	品質試験実施毎	・ 試験の実施状況及び試験結果を撮影する。
	スランプ試験 圧縮強度試験 塩化物含有量試験 モルタルのフロー値試験	品質試験実施毎	・ 試験資料の採取及び作成状況を撮影する。 ・ 試験の実施状況及び試験結果を撮影する。
鋼橋	鋼材 機械的性質試験 グループ溶接試験 すみ肉溶接試験 スタッド溶接試験 放射線透過試験 ボルト締付試験	品質試験実施毎	・ 試験資料の採取及び作成状況を撮影する。 ・ 試験の実施状況及び試験結果を撮影する。
P C橋桁	グラウト コンシステンシー、膨張率 圧縮強度試験 塩化物含有量試験 ケーブル緊張試験	品質試験実施毎	・ 試験資料の採取及び作成状況を撮影する。 ・ 試験の実施状況及び試験結果を撮影する。
トンネル N A T M	覆工コンクリート スランプ試験 圧縮強度試験 塩化物含有量試験 空気量測定 細骨材の表面水率試験 コアによる強度試験	品質試験実施毎	・ 試験資料の採取及び作成状況を撮影する。 ・ 試験の実施状況及び試験結果を撮影する。
	吹付コンクリート スランプ試験 圧縮強度試験 塩化物含有量試験 空気量測定 細骨材の表面水率試験 粗骨材の表面水率試験 コアによる強度試験	品質試験実施毎	・ 試験資料の採取及び作成状況を撮影する。 ・ 試験の実施状況及び試験結果を撮影する。
	ロックボルト 引抜き試験 モルタル 圧縮強度試験 フロー値試験 塩化物含有量試験	品質試験実施毎	・ 試験資料の採取及び作成状況を撮影する。 ・ 試験の実施状況及び試験結果を撮影する。
溶接工	グループ溶接 引張試験 型曲げ試験 マクロ試験 衝撃試験 放射線透過試験 すみ肉溶接 マクロ試験 スタッド溶接 引張試験 曲げ試験	品質試験実施毎	・ 試験資料の採取及び作成状況を撮影する。 ・ 試験の実施状況及び試験結果を撮影する。

3 品質管理写真撮影要領

工 種	撮影項目	撮影頻度	撮影の要点及び注意事項
ノンフレイム工	セメントミルクの 圧縮強度試験 フロー値試験 塩化物含有量試験 ロックボルト 緊張適正試験	品質試験実施毎	- 試験資料の採取及び作成状況を撮影する。 - 試験の実施状況及び試験結果を撮影する。
補強土壁工	土の締固め試験 現場密度の測定	品質試験実施毎	試験の実施状況及び試験結果を撮影する。